

しゃかい ふくしほうじん む さ し 社会福祉法人六三四

六三四たより



しゃかい ふくしほうじん む さ し ほうじんほんぶ とうきょうとこだいらしななまち ばんち
社会福祉法人 六三四 法人本部 〒187-0042 東京都小平市仲町364番地1

T E L 042-343-1895 F A X 042-346-0283 e-mail musashi@musashi1895.jp HP-URL <http://musashi1895.jp/>

じぎょうしょいちらん 事業所一覧

ちいきしえんぶ せいかつかいごじぎょう 地域支援部 生活介護事業

- ・生活リハビリセンター六三四
- ・生活リハビリセンターみやび
- ・生活リハビリセンター絆

せいかつしえんぶ きょうどうせいかつえんじょじぎょう 生活支援部 共同生活援助事業

- ・青粋ケアホーム
- ・彩ケアホーム
- ・お結び(短期入所)

そうだん しえんぶ 相談支援部

- ・計画相談支援 障害児相談支援 事業
- ・スカイサポートセンター

あら へんかく じだい むか 新たな変革の時代を迎えて

しゃかいふくしほうじん む さ し りじちよう やまぐち あきら
社会福祉法人 六三四 理事長 山口 明

さくねん がつ じょうりくいらい くろふねらいこう しようげき ききょうふ いちねん
昨年1月の上陸以来、黒船来航のごとき衝撃と恐怖の一年となりました。

コロナウイルスのパンデミックも、気候変動による世界各地の災害も、社会の格差問題も、グローバル資本主義
社会のなせる末期症状だと説く社会学者も居ます。

歴史を紐解けば、古代から人類社会の行動とウイルス、疫病との関係は興味深いものが指摘されています。3世紀
～4世紀前半の「崇神天皇」(いたかどうかは定かでない。『古事記』)時代に天然痘ウイルスが持ち込まれ(当時の
「晋王朝」の洛陽で猛威を振るった284年)、ヤマトでも人口の約半数が死去したそうです。

折しも、大陸では三国志、列島では倭国大乱という戦乱の時代背景。

以前、「六三四」職員のリハ勉強会でも題材となった、「ペスト」とヨーロッパ社会。あの時の欧州周辺を見る
と、「十字軍のアジア侵攻」「ジンギスハーンの欧州侵攻」「シルクロード陸海路の交易」という人類行動に伴
い、インドの一地方風土病に過ぎなかった「ペスト」の菌がクマネズミに運ばれてベネチアから一気に欧州全土
に拡がり、当時人口約一億中、4000万人以上が短期のうちに絶命したとあります。

このパンデミックは退廃して無力だった中世ローマカトリックへの失望から、ルターを初めとする「宗教改革」
が起こり、それまでの農奴主力の荘園制が崩れ、新たな「賃労働」の萌芽をみ、伝統的な中世教会医学がペス
トを前に無力を露呈し、新たに人体解剖や顕微鏡の導入などの「ルネッサンス医学」が舞台上に登場したのです。
さて、現代社会、日本はどう変わるのでしょうか。現、倭の為政者からは残念ながら余り期待できそうにない
ようです。

「自助、共助、公助？」(ここ40年保健所をどんどん潰して、経済では派遣労働者を増やし、格差をどんどん広げ、自助もできない、公助も貧しくしておきながら「Go to 終末期」なのか?)には疑問です。振り返って「世田谷区」や「北九州市」のコロナ対策を見てみましょう。

世田谷区では「PCR検査」を全介護関係のスタッフ・利用者・関連職約3万人に全社会的検査として実施、障がい者施設、保育園にも拡げている。

また、区内27か所の「特養」に何かあったときに互いにスタッフを融通し合う「覚書」を推進したりしている。やはり今回のパンデミックは、社会の転換を迫っています。

今、地域社会はどんな人も一市民として平和に平等に生きられる社会を求めています、われわれ社会福祉を担うスタッフは何を行えるか、今年は試金石の年になるかもしれません。

令和3年のごあいさつ

六三四ホーム 施設長 伊藤 智和

ご利用者様・ご家族・関係事業所の皆様へは社会福祉法人 六三四の事業への多大なるご協力を頂きまして誠にありがとうございます

この未曾有のコロナウイルスの流行のさなかではありますが、感染防止に配慮しつつ、事業所を継続していくため、法人を挙げて乗り越えていかなければならないと考えています。

今回はグループホームの紹介もかねて筆を執らせていただきます。

現在 六三四ホームでは2ユニット(青粋ケアホーム・彩ケアホーム)にて運営しており入居者様は8名です。青粋ケアホーム(男性3名・女性1名) 彩ケアホーム(女性4名)

青粋ケアホームは平成26年、身体障がいの方の地域生活を支える目的で創設いたしました。当時はグループホームに関するノウハウもなく、分らない事があれば社会福祉法人 未来様や関係機関の皆様のご協力・ご指導を仰ぎながらひとつずつ課題を解決してまいりました。

そして、令和2年8月に念願の彩ケアホームが創設されました。現在、入居者8名 職員19名で支援を行っております。グループホームは日中活動事業所より長い時間の支援、体調管理など生活に即した、その人の人生の一部を支えて行くものであると思っております。

ホーム事業での課題としては健康保持・予防により一層の取り組みが必要がある。入居者様の健康状態の把握をするためには、ご家族や関係機関との情報共有を行いつつ、現場の支援職員との情報共有・入居者様の健康観察を欠かすことができない。現在、訪問看護事業所さんの協力も頂いている入居者様は8人中6名が利用をされていて、グループホームにおける医療面での支援がいかに大切であるか実感しております。

今後においても地域での身体障がい者のグループホームのニーズは高まると思われ、それぞれの入居者様への個別対応については、さらなる職員の支援能力や対応能力のスキルアップ、ボトムアップを行う必要があります。支援の「質の向上」を目指す事が重要であると考えています。地域の福祉ニーズに答えることが、入居者様、ご家族を含め「互いに安心して目標・目的がある生活・支援」を提供できるよう目指していきたいです。

若輩者ではございますが、何卒よろしくお願いいたします。

ちょっと自己紹介をします。

年齢：昭和50年生まれ

出身地：東久留米市(35年居住していました)

好きな食べ物：お米全般(青天の霹靂・新之助・雪若丸・ミルククイーン)

休日にやること：裏道探し、関東一円のスーパー銭湯探訪、地元スーパー探し、

好きなこと：歴男(昭和元年～40年までの出来事を調べる)、博物館巡り

愛読書：雑誌「丸」

GH利用者インタビュー

K・M様

● 六三四に通って、生活スタイルはどう変わった？

学校では同世代の人達で活動していたけれど、六三四へ通って自分よりも年上の方が多くて社会人への意識をしていかなければならないと思った。まだまだ足りてないですが。

● 六三四の利用者さんとの関係はどう？

自分が一番年下で、みんな仲良くしてもらって嬉しく思います。

面倒見が良く、車にも詳しいIさん

● 六三四での日中活動では、どんな取り組みをしている？

得意な絵を生かしたレザークラフトとあんでるせん手芸に取り組んでいます。学校ではポスター作品で金賞を取ったこともあるんです。

● 学校に通っていた時と比べて、今は？

学校にいたころは、先生たちに言われないと行動しなかったが、六三四に来て徐々に自分から行動するようになった。

● 彩に入るにあたって最初は不安があった？（親元を離れてなど）

まずは、みんなと仲良くなれるか不安が大きかった。あとは、やっぱりおばあちゃんと離れるのがさみしかった。

● 彩での生活スタイルについて。

帰宅後、夕食を済ませて、テレビを観たりお話しして、少し職員さんのお手伝いをしたりします。21時過ぎには寝ます。

● 今後、六三四・彩での生活において、どんな生活を送って行きたい？

六三四では、楽しくレザークラフトに取り組み少しでも社会貢献出来るようにしたいです。

彩での生活を経て、いつか一人暮らしを目標に頑張っていきたい。

● 六三四に来て良かったこと、彩に来て良かったこと。

六三四に来て、毎日楽しく生活を送れるようになった。

彩に来て、集団生活を送っていく上で、規則正しい生活を送っていけるようになった。

● 六三四・彩の職員とは仲良くなれた？

六三四の職員さんは、面白い人や優しい人、注意してくれる人がいて頼もしくて嬉しく思います。

彩の職員さんは、身の周りのお世話をしてくれて感謝しています。

六三四・彩での生活を続けて、これから入ってくる後輩や六三四の人から尊敬される人になりたいです。



忘年会

生活リハビリセンター六三四・雅・絆では12月18日に忘年会を行いました。

六三四では昼食は小平市にある楽善のお弁当、スイーツは小平市にある洋菓子店エトアールから好きなスイーツを選んで頂き召し上がりました。午後からは職員達による二人羽織と箱の中身はなんだろな？と恒例のビンゴ大会をしました。いつも接している職員達が普段見せない仕草やシーンがあり利用者様に大変喜んで頂きました。ビンゴ大会も皆さん景品に喜んで頂き、今年も大成功の行事となりました。

雅では催し物として、カラオケ大会と風船バレーを行いました。カラオケ大会では、利用者様に司会をやって頂き、利用者様皆さんで「さんぼ」を歌い盛り上がったところで、それぞれ好きな曲を歌って楽しまれている様子がありました。もう一方では、マット上にて風船バレーを行い風船に触れて感触を楽しみながら身体を動かして頂きました。昼食は、楽善で9種類のおかずが入ったお弁当を注文し、デザートは小平市にあるケーキ屋さんエトアールで4種類から選んで頂きおいしそうに召し上がるのを拝見しました。今後も楽しい行事を企画していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

絆では、昼食はガストのデリバリーを召し上がり、午後は冬の大運動会を行いました。寒さを感じさせないぐらいのパワーで体を動かしました。利用者様みんな楽しく元気に行くことが出来て、大成功のイベントとなりました。



令和2年1月27日(金)に社会福祉法人 六三四全体研修会を行いました。今回は虐待についての講義でした。限られた時間の中で、虐待防止法や虐待の中でもいろいろな種類が存在することなど、これからの支援に向けて沢山学びました。コロナ禍でしたので、事業所別にリモートでの研修会となりました。

今回講義して下さったNPO法人ともにネットの藤内理事長ありがとうございました。

物品寄贈

一般社団法人小平青年会議所様・安原様ありがとうございました。

今後の予定

2月11日(木)	建国記念の日・開所日	2月26日(金)	お楽しみ会(六三四・雅)
2月12日(金)	メンバー懇談会(絆)	3月12日(月)	メンバー懇談会(絆)
2月18日(木)	メンバー懇談会(六三四)	3月19日(金)	メンバー懇談会(六三四・雅)
2月19日(金)	メンバー懇談会(雅)		
2月23日(火)	天皇誕生日・開所日		

まいしゅうげつ すい もくようび
 (毎週月・水・木曜日)
 まいしゅうげつ すい もくようび
 (毎週月・水・木曜日)
 まいしゅうすい きんようび
 (毎週水・金曜日)

こべつ りがくくんれん てらだ
 個別理学訓練(寺田PT)
 あんまマッサージ指圧師(井上)
 こべつ げん ごくんれん こばやし
 個別言語訓練(小林ST)

第20No.3六三四たより発行以降の入職者

生活リハビリセンター六三四 松田美喜子 有村淳美 長内ゆき子
 生活リハビリセンター雅 田上由利子 小林幸
 生活リハビリセンター絆 佐次田奈々 村中仁 河野有友美

